

東大病院 地域医療連携センター通信

CONTENTS

- 2022年版_東大病院診療科案内と連携受診案内が完成しました……………1
- 診療科紹介
 - 老年病科……………2
- がん相談支援センターからのお知らせ……………4
- 医療連携機関登録制度の申込書類及び運用が変わります!……………5
- ～デジタルサイネージ～ 情報案内板を導入しました……………5
- 医療連携登録医療機関のご紹介……………6
- 医師会へ訪問いたしました!……………6



2022年版_東大病院診療科案内と連携受診案内が完成しました

当院へのお問い合わせやご紹介の際にご利用いただけるよう、表記内容を一部変更いたしました。

【東大病院診療科案内】※a

診療科直通的連絡方法や、予約方法についての表記が変わりました。

- ・直通電話(内線)の一覧表を新しく追加 ▶ P02
- ・予約方法についてのページを前方に移動 ▶ P03

【連携受診案内】※b

ご紹介時にご活用いただけるよう、専門外来の予約枠の表記が変わりました。

- ・医療機関専用予約枠の表記数を113枠→154枠に増加
- ・文字も拡大し、見開き2ページで表記に変更

上記内容につきましてはメールマガジンでも配信しております。
新たに配信をご希望される場合は、下記URLからアドレスをご登録ください。
URL <https://forms.office.com/r/Ck8bf7dtD9>





皆様の周りに複数の病状を抱えつつ、歩くのが困難になってきたり、もの忘れが気になってきたりするような方はおられないでしょうか。徐々に自宅での生活が困難となっている方はおられないでしょうか。

老年病科は、後期高齢者を主な対象として、多様な疾患の診療をおこなっています。高齢期になると、疾患の発症や重症化により病状のみならず生活機能の低下を来たすことが多く、むしろそのために自宅退院が困難となることも少なくありません。当科では、老年科専門医や内科系の専門医が中心となり、看護師や薬剤師、心理士等、複数の職種で入院・外来診療を行っています。

老年病科の専門外来

-  認知症センター老年病科外来：平日午前、初診外来にご紹介ください。
-  フレイル・サルコペニア外来：平日午前、初診外来にご紹介ください。
-  漢方女性外来：金曜午後、予約制です。まずは、東大病院予約センター03-5800-8630でご予約下さい。
-  高齢者息切れ外来：平日午前、初診外来にご紹介ください。
-  高齢者お薬相談外来：月曜午後、予約制です。まずは、東大病院予約センター03-5800-8630でご予約下さい。

高齢患者は複数の慢性疾患を合わせ持つことが多く、また心身の加齢変化により日常生活を支援や介護なく送ることが困難となってきます。生活機能にかかわる病気も増えてくることから当科では初診時から高齢者の病状全体を包括的に評価し、また同時に生活機能の低下の有無を確認し、在宅での生活が問題ないか、介護や支援は十分充足しているか、なども含めた高齢者総合機能評価(CGA)を行い、そのうえで個々にあった治療法を決定しています。もちろん、低下してしまった生活機能を即座に回復させる方法はなかなかありませんので、身体機能・認知機能の低下をいかに緩めるか、に主眼をおくことも多々ありますが、「病気を治す」ことが難しくとも、ADLやQOLを重視し「病人の体調あるいは生活をできる限りよくする」ことを目標としています。

具体的に当科で多く診療する疾患としては、外来診療では認知症やフレイル/サルコペニア、骨粗鬆症になります。認知症の主な症状としては短期記憶障害や見当識障害になりま

す。これらが原因で機嫌が悪くなった、活発に行動できなくなったなどの行動・心理症状(BPSD)と言われる症状を発症し、本人のみならず家族などの介護者の生活の質を低下させることも少なくありません。そのため、認知症診療の発展は欠かせません。当院では、当科および脳神経内科、精神神経内科、脳神経外科とともに認知症センターを令和4年4月に設立しました。診療の際には当科にご紹介いただけましたらば、初診外来を通じ認知症センターの外来医が診療する形式となりますが、普段の生活の様子を把握し、心理検査や脳の画像検査、血液検査等を実施して病状の診断を行い、治療法の決定はもちろんのこと、日常生活を送るうえで必要とする介護サービス等の導入を検討いたします。

一方、フレイルやサルコペニアも近年、当科にかかる患者で非常に増えてきている印象です。フレイルやサルコペニアは症状としては目立ちにくいものですが、歩行が困難になってきた、ふらふらすることが多くなった、疲れやすくなった、という症状は特に後期高齢者では見られるようになります。適切な食事や運動に伴い回復する可能性がある病状とはいえ、診断がされにくいことや、食事を多く食べられない・運動をする元気がない、など対策が十分にとられないこともあります。当科では体重あるいは筋肉量の測定を実施することにより、客観的な指標を用いた評価・フォローアップを実施しています。



骨粗鬆症も診断に必要な骨密度測定や骨代謝マーカーの測定(血液・尿)などを実施し、治療方針を決定するとともに日常生活における注意点の説明を行っています。歩行困難やふらつきなどのある高齢患者では、転倒による骨折のリスクが高まります。そのため、フレイルやサルコペニアにてご紹介いただく患者に対しても、積極的に骨粗鬆症の鑑別を行っています。

その他にも高齢者では、生活機能の低下に直結するようなさまざまな症状があります。加齢による影響が強くなかなか改善が難しい病状もありますが、例えば意欲低下や食欲不振などが生

じ、どのような病気が原因であるかわかりにくく、どこの診療科へ行けばよいか分からない症状を有する場合、臓器別の診療では診療先が決定しない患者さんもおられます。当科ではこのような方々に対し、疾患のスクリーニングや生活機能の維持のための方策を検討します(必要に応じて精査入院を実施)。

入院診療では肺炎や尿路感染症、心不全、脱水、などの緊急入院を多く診ております。若年者では病状の回復とともに日常生活に問題なく戻れる方が多い一方、入院後に歩けなくなったり、身の回りのことを一人でできなくなったりしますが、入院早期より円滑な退院支援を実施できるよう、CGAを実施しています。このほか、もの忘れや歩行困難などの症状の精査入院なども実施しています。これらの病状は単一疾患によるものであることは少なく、生活習慣を含めた複数の要因が関与しています。入院中に身体機能や認知機能を細かく検査し、関与する要因を明らかにしたうえで退院後の生活が少しでも安定するよう指導をしています。

以上の疾患以外にも当科ではさまざまな専門外来を開設しています。

老年病科で診療する主な症状や疾患



近年、お薬を非常に多く処方される高齢患者が増えており、かえって健康被害に遭いやすい状態、いわゆるポリファーマシーの問題が顕在化しています。病状の治療や安定化に必要なお薬だけでなく、過去に必要なお薬が漫然と継続されていたり、過剰効果(効き過ぎ)が出ていたりする方もおられます。また、お薬が多くなってくると、飲み忘れやの見間違いなど服薬アドヒアランスの低下が生じやすくなります。そのような観点から定期的にお薬の見直しを実施することが必要なのですが、いざ見直しをしても減薬や減量を実施することにはリスクが生じるため、判断に迷いが生じやすくなると思われます。当科では「高齢者お薬相談外来」を設けており(月曜午後・予約制)、処方薬全体の情報を把握し、病状に適した処方であるかどうか優先順位をつけ、中止すべきか継続すべきか、中止すべき場合にはどのように中止していくか、継続の場合には服用方法についての確認や提案などを実施します。

また、高齢期の女性に特有の症状や性機能低下に関連した疾患について時間をかけて治療を行う漢方女性外来を当科で設けています(金曜日午後・予約制)。実際に内科や精神神経科に関連した疾患がないかを鑑別すると同時に心理的・社会

的背景を掘り下げ、生活習慣の改善や薬物治療(漢方薬含む)について希望をうかがいながら実施しています。

また、睡眠時無呼吸症候群の治療を当院では老年病科が担当しています。睡眠時無呼吸低呼吸症候群の精査(ポリソムノグラフィー)や経鼻的持続陽圧呼吸療法(nasal CPAP)の導入・管理などを行っておりますので、高齢者に限らず、若年者でも問題なく診療いたしますので、ご紹介ください。

東京大学医学部附属病院老年病科ホームページ:



患者さんの紹介について

ご紹介いただく患者さんのご予約は「予約センター」にご連絡ください。

予約センター

<受付時間 平日 9:00 - 18:00>

患者さんからの電話は【10:00 - 11:00】

☎ 03-5800-8630

専門外来での予約をご希望の場合は、下記URLの「医療機関専門予約枠」をご参照ください

<https://www.h.u-tokyo.ac.jp/participants/shoukai/>



がん相談支援センターからのお知らせ

がんに関するあらゆる疑問や不安の相談窓口・どなたでも無料でご利用いただけます

がん相談支援センターの役割

がん患者さんご家族が、適切な診療を安心して受けられるよう、がんの治療から生活全般にわたる様々な疑問や不安について、

- ①お話を伺い、一緒に考えます
- ②信頼できる情報を提供します
- ③適切な部門や施設に案内します

相談できる方

- ・患者さん本人だけでなく、ご家族やご友人の方も相談できます
- ・東大病院におかかりでない方もご利用いただけます
- ・一般的ながん情報を知りたい方への情報提供も行います

相談方法

面談での相談をご希望の方は、予約をお取りください

※予約なしでもお受けしますが、お待たせする場合があります
簡単な情報提供は電話でも対応します

電話：03-5800-9061

時間：平日9:00～12:00／13:00～16:00

※対応中など、電話に出られないことがあります

※オンラインでの相談をご希望の方は、お問い合わせください

スタッフ

医師3名・相談員3名

相談業務は主に看護師が担当しています

※相談員は、国立がん研究センターが主催する「がん相談員研修」を修了しています

場所

東大病院入院棟B・1階

詳しくは、外来総合案内でおたずねください

ホームページ

<http://todai-gansodan.jp/>

患者サロンの案内などもこちらで行います



ご相談と対応の例

	ご相談	対応の例
治療	治療法に迷う 副作用が心配	判断材料となる情報を提供します
	先進医療や臨床試験を受けたい	該当する試験を探します 東大臨床試験推進センターを案内します
	ゲノム診療を受けたい セカンドオピニオンを受けたい	東大ゲノム診療部を案内します 具体的な手続きを案内します
生活	あまり食べられない	食事の工夫をお伝えします
	家事や介護のサポートを受けたい	福祉・介護サポートの窓口や利用法を一緒に探します
仕事	治療との両立が不安	会社の勤務制度を利用できないか一緒に考えます 社会保険労務士への相談方法を案内します
経済	治療費が不安	利用できる社会制度を一緒に探します
気持ちのつらさ	不安、悩みをきいて欲しい	ゆっくりとお話を伺います



相談が主治医に知られてしまうのでは?と不安な方へ

- ・相談の内容を、同意なしに他者に知らせることはありません
- ・匿名での相談も可能です

AYA世代患者さんへの支援

- ・AYA世代(15～30代)の患者さんのお悩み(妊孕性、就学・就労など)にも対応します

ピアサポート

がん経験者の方とお話を希望の方は、お問い合わせください

見た目の変化へのケア(アピアランスケア・外見ケア)

- ・ウィッグの相談、試着ができます
- ・化学療法による色素沈着や手術あとに対するカバーメイクの紹介も行っています



すべての相談は、無料でお受けします

医療連携機関登録制度の申込書類及び運用が変わります!

前回の更新時にいただいた皆さまからのお声をもとに、医療連携登録制度の申込書類や運用方法を変更いたしました。

- ◆申込書類、手続きを簡略化しました。
- ◆5年ごとの更新が自動更新に変わります。

申込時、更新時の皆さまのご負担が減ります。
登録までにお待ちいただく時間が短くなります。

—連携医療機関の皆さまへ—

2022年12月以降に登録、更新する医療機関から順次変更してまいります。

それ以前に登録、更新いただいた医療機関につきましては、登録(更新)から5年経過後の年度末の更新時に上記運用への変更を予定しております。

ご面倒をおかけいたしますが、更新の際には手続きへのご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

ご不明点・お問い合わせは、地域医療連携センターまで
ご連絡ください。

TEL : 03-5800-9101

受付時間 : 8時30分~17時



~デジタルサイネージ~ 情報案内板を導入しました

この度、外来診療棟1階総合案内横に情報案内板を設置することとなりました。この情報案内板はタッチ式モニターとなっており、当院の医療連携制度にご登録いただいている医療機関の基本情報(医療機関名、住所、診療科目)を検索できる仕組みとなっております。

さらに、スマートフォンでも同じ様に医療連携登録機関の検索ができるコンテンツをご用意して、患者さんの利便性を高め、サービスの向上を図ります。

これまで医療連携登録医療機関の一覧表をポスター掲示と配布を行っており、多くの患者さんに利用していただいておりますが、この情報案内板を新たに導入することで今後益々の地域

医療連携の発展に寄与できることを期待しているところです。

今後とも地域医療連携の強化に努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。



【お知らせ】令和4年度の診療体制について

令和4年度の診療体制について、同一週内に2度の休診日があること及び同一曜日が2週続けて祝日になることを鑑み、令和5年1月9日(月)を開院し、通常の平日と同程度の診療体制(外来・入院)を確保しますのでお知らせいたします。

診療日:令和5年1月9日(月)



小村肛門科医院

院長：小村憲一

所在地：東京都葛飾区堀切 2-9-7

TEL / FAX: 03-3697-3917



当院は、1935(昭和10年)に祖父が開設いたしました。祖父と父の跡を継ぎ、2006年に3代目院長になりました。

肛門疾患はありふれた病気でありながら、人に言うのが恥ずかしいと思われている病気です。ネットで調べたり、市販薬を使っても改善せず、限界になってから受診される方が多いです。

当院を受診された方も、「こんなに痔の患者さんっているんですね」と驚かれ、「こんな事なら、もっと早く来れば良かった。」と言われます。

肛門疾患で、手術になるのは、2割ほどです。それ以外は軟膏や内服薬の保存的治療を行います。「いきなり切られてしまうのでは？」と不安に思って受診を躊躇している方もおられますが、そんなことはないので、安心して受診してください。

肛門疾患の治療には、幾つかの選択肢があります。患者さんが快適に過ごせるように、生活習慣や仕事の状況、家庭環境を加味して治療方法を選択します。薬で治療する場合は、最も適した薬を、手術が必要な場合には、痛みが少なく、根治する手術を行います。肛門に対して誤った考え方を持っていて、それで苦しんでいる方もおられます。その場合には対話指導をします。それぞれの患者さんに最も必要な事を行い、来て良かった、安心したと言ってもらえるように心がけています。



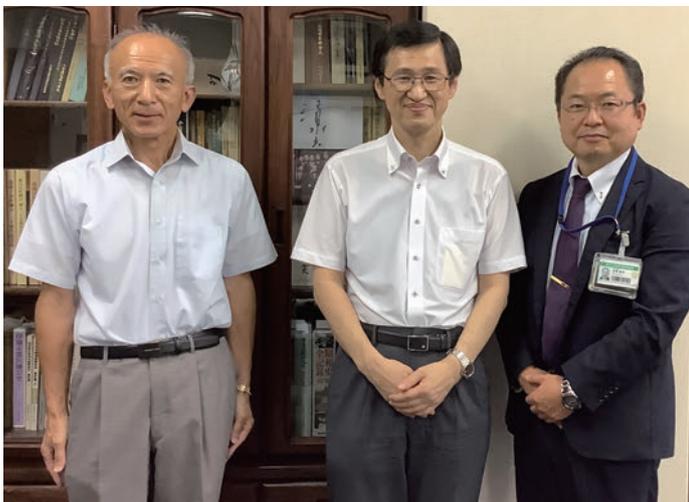
ホームページ

<http://www.komura-koumonka.com/>

医師会訪問について

2022年8月より医療連携の更なる機能強化のため各医師会にご訪問させていただきました。新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、ご訪問先につきましては東京都23区、埼玉県、千葉県の一部の医師会とさせていただきます。

引き続き、患者さんに最善の医療を継続的に提供するための体制強化を目指して行く所存ですので、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



野田市医師会 理事 三上 繁先生(写真中央)



文京区医師会 会長 山道 博先生(写真中央)